

今、辻堂で…
知ってますか？

辻堂の芸術家たち vol.1

洋画家

廣瀬 功氏・範氏 親子

辻堂に芸術家がいる事をご存知だろうか？ 辻堂タイムズでは芸術の秋という事で、第1回目として、洋画家廣瀬親子を紹介します。

廣瀬功(80)氏は、洋画家の巨匠安井曾太郎氏の門下生であった。その後二科会に枝別れし、安井曾太郎氏、有島

生馬氏等を主体とした一水会や日展に出品受賞の数は数えきれない。日展内閣総理大臣賞、日本芸術院賞を受賞。日展の理事を務める。功氏の作品は独特なタッチで、洋画でありながら、どこか日本画調である。色彩も印象の才気を感じる奥深さだ。画家にとつて基礎なるものであるデッサンを拝見すると、安井氏の作品に似ている。その精神が根底にある。

息子の範(44)氏は辻堂生まれ、辻堂育ち。物心ついた頃から絵が好きだった。小学校5年の時、初めて「油絵を描いてみたい」と申し出て、父のアトリエでお皿に入った桃を描いた。

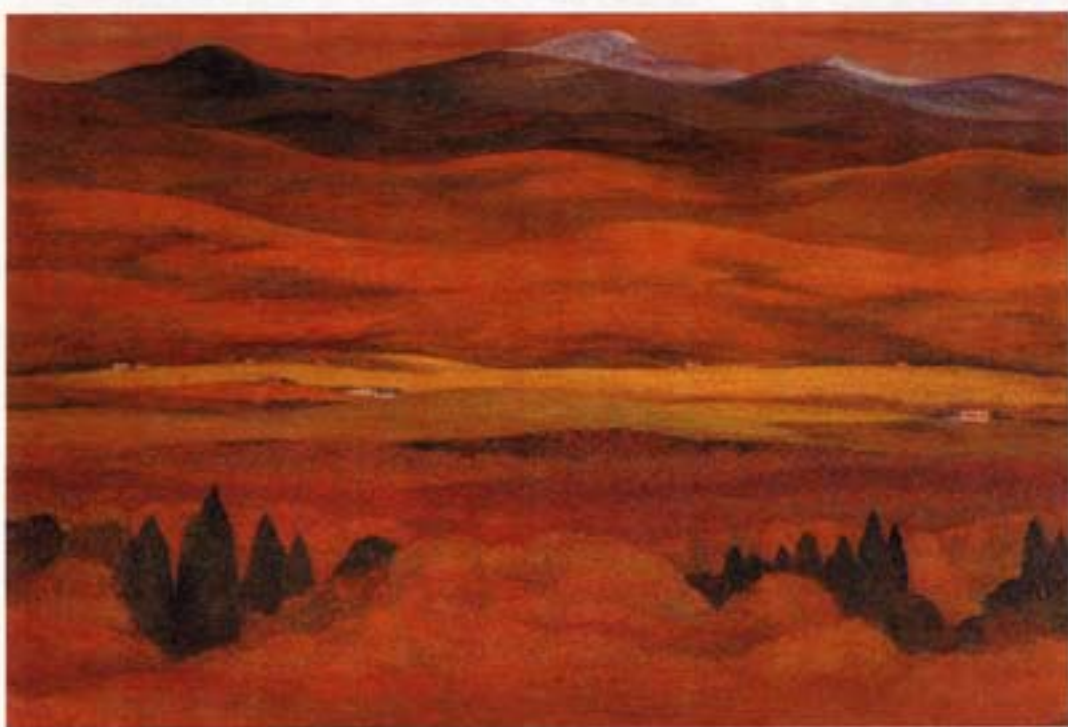


廣瀬 範『海辺』(1981年)

その作品を見た功氏は「何も教えてないのに」と驚いた。「一番秀作で

したね」と範氏は笑う。範氏が画家を目指す決めた時、功氏は反対したという。会への発表作から、範氏は砂浜や砂丘の作家とも言われる。それは、幼い頃辻堂海岸周辺の砂山で幼馴染みと遊んだ風景をモチーフにする事が多いからだ。同じ思い出のある方には懐かしい情景だ。また、範氏は真言宗の僧侶でもある。行を通じて色々な事を学び指導している。「偉大な父を持つプレッシャーを感じた時期もあったが、今は人の評価を気にせずありのままに描きたいもの」とい

た功氏は「何年も教えてないのに」と驚いた。「一番秀作でしたね」と範氏は笑う。範氏が画家を目指す決めた時、功氏は反対したという。会への発表作から、範氏は砂浜や砂丘の作家とも言われる。それは、幼い頃辻堂海岸周辺の砂山で幼馴染みと遊んだ風景をモチーフにする事が多いからだ。同じ思い出のある方には懐かしい情景だ。また、範氏は真言宗の僧侶でもある。行を通じて色々な事を学び指導している。「偉大な父を持つプレッシャーを感じた時期もあったが、今は人の評価を気にせずありのままに描きたいもの」とい



廣瀬 功『高原の秋』(1982年 日展内閣総理大臣賞)



廣瀬 功『高原の春』(1999年 第61回一水会展)

から9月は子範ます描いものにり評今つた時期もあ
10月(秋)は子の氏すいてもの描きたまあをの
中旬(毎年1作品親といををたあをの
旬(秋)は子の氏すいてもの描きたまあをの

廣瀬 範氏 略履歴

高校3年で二科展で初入選、玉川大学芸術学科油絵科卒。同専攻科修了。1979年一水会展初入選、以後連入。一水会展で連続受賞。1981年日展初入選、以後入選12回。現在、一水会会友、日展会友、神奈川一水会作家展同人、日本風景美展銀賞。他



廣瀬 功氏 略履歴

東京都美術学校(現芸大)油絵科卒。1946年一水会展、日展初入選。その後、数々の賞を受賞。1982年日展内閣総理大臣賞、1986年日本芸術院賞、第1回小山敬三美術賞を受賞。1995年勲四等旭日小綬章を受ける。安井曾太郎門下連袖会会員。

に「一水会展」(東京都美術館)で見ることが出来る。功氏の作品は鎌倉近代美術館、竹橋の近代美術館で収蔵されている。



廣瀬 範『蔵王権現の春』(1992年 第54回一水会展)